

9 月 28 日 (水)

だい だい かぐら きゅうしょく

太々神楽給食

8日課 12:00給食

ひややっこ

とうがんのごまずあえ

ヤシオマスの
にらしょうゆやき

はつがげんまい
いいごはん

あさいの
みそしる

きょうの給食メモ

太々神楽給食…

子どもたちは、^{うつのみやがく}宇都宮学の勉強を始めています。その一貫として、^{きゅうしょく}給食でも「^{だいだい かぐら}太々神楽」を取り上げてみました。どの辺が太々神楽なのかと問われると、^{むず}難しいのですが、^{きしょう}希少な食材を用いて、^ふ振る舞いの食事をイメージして作りました。

さて、^{きゅうしょく}給食の時間に、^{ふたあらやまじんじや}二荒山神社で行われている太々神楽の映像を見ました。^{ししよ}司書の伊東先生がこの日のために^{ひがしとしょかん}東図書館から取り寄せてくれたものです。^{うつのみやし}宇都宮市に代々伝わる^{だいだい}伝統文化に触れた^{きゅうしょく}給食となりました。

二荒山神社の神楽



二荒山神社の神楽は、太々神楽と呼ばれるもので、江戸時代の中頃に江戸系統に属する神田(かんだ)流から教わったと伝えられ、神社では宮比流(みやひりゅう)と称しています。毎年、1月・5月・9月のそれぞれ28日に、境内の神楽殿で奉納されています。演目には、岩戸廻りの舞、固定めの舞、猿田彦の舞、二神の舞、八幡の舞、四季の舞、玉取りの舞、岩戸の舞、稲荷の舞、鬼女の舞、三狐の舞、恵比須の舞、大黒の舞、熊襲の舞、随神の舞、お蛇の舞、湯立の舞、山の神の舞の18演目あり、毎回その場で7～8演目を選んで奉納されます。面の数は、天津神の面は39面。高田運春らの江戸時代の終わり頃から明治時代にかけて活躍した宇都宮の仏師の名前が墨書きされているものが多くあります。

(昭和44年宇都宮市指定無形文化財)

宇都宮の伝統文化

- 二荒山神社の神楽
- 菊水祭
- 堀米の田楽舞



宇都宮市立視聴覚ライブラリー

